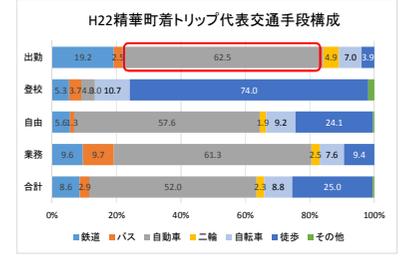


地域の公共交通機関等が抱える課題

◆公共交通利用促進によるCO2削減が必要  
 ・高い自動車分担率  
 ・通勤者数の増加  
 →さらなるCO2の増加が懸念されるため、現状の自動車利用者を含め、公共交通利用を促進することが必要



◆バスの輸送力強化が必要  
 ・通勤者数の増加  
 ・バスの運行本数が限界  
 →バスの容量を拡大するなどの対応が必要

◆毛細血管となるネットワーク整備が必要  
 ・街区が大きく徒歩での移動が困難  
 ・高齢化による交通弱者の増加  
 →実証的に導入されているEVカーシェアや、自転車の走行空間も確保されている道路空間など、充実した既存インフラを活用しつつ、ラストワンマイルをつなぐ毛細血管のような交通ネットワークが必要

◆バス運行の円滑化が必要  
 ・駅前広場の混雑でバスが遅延  
 →送迎用自動車によりバス運行に影響を受けているため、ピーク時でもバスが円滑に発着できるような駅前広場の改良や運用の見直しが必要  
 →バスが遅延しないような優先システムや、利用者がバス運行情報を確認できるシステム等が必要



上位・関連計画

- 関西文化学術研究都市(京都市域)の建設に関する計画(京都市)
- 精華町第5次総合計画(精華町)
- 精華町都市計画マスタープラン(精華町)
- 京都府地球温暖化対策推進計画(京都府)
- けいはんなe2未来都市創造プラン(京都府)
- けいはんな学研都市 今後のあり方(ビジョン及び推進戦略)(国土交通省・(公社)関西経済連合会 等)

目指すべき地域の交通体系の方向性

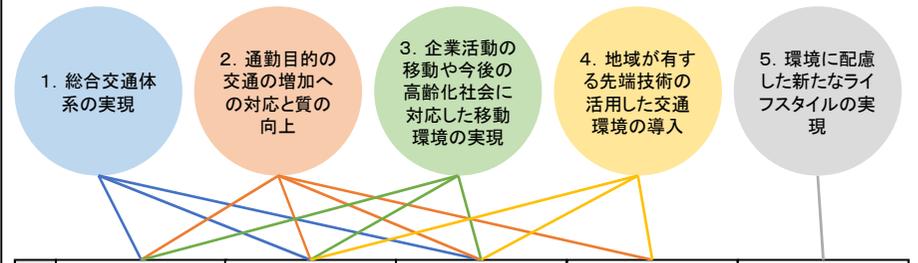
- 大阪・関空・京都・奈良との連携を強化する広域連携軸として機能し、公共交通利用を促進する基幹公共交通の確保
- 基幹公共交通を補完し、地域内の移動を支えるバス、タクシー、カーシェアからなる総合的な交通システムの構築
- スマートシティのモデル都市に相応しい新たな交通システムの実現
- 環境負荷が極めて小さいICTを積極的に活用した交通システムの構築

目指そうとする地域の将来像

・我が国の文化・学術・研究の向上に資する関西文化学術研究都市の中心として、一層の機能強化を図るため、また、地域の自然や文化を基軸として、生活の質や心の豊かさを大切にする社会への転換を目指していくため、広域的な交通ネットワークを形成し、21世紀の環境モデル都市として、新技術の積極的な導入による環境共生や省エネルギー等の先進的な低負荷型街づくりや、高齢者等に配慮した人に優しい都市空間を形成する

目指すべき地域の交通体系

“基幹公共交通と地域内ネットワークが一体となった交通システム”



目指す交通体系の実現に向けた具体的な取り組み	①基幹公共交通による都市軸の形成	②基幹公共交通を補完し地域内の毛細血管となる地域内ネットワークの構築	③公共交通の利用促進に資する交通結節点の整備	④ICTを活用した地域情報システムの導入	⑤新しいライフスタイルへの行動変容の促進
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連節バス導入</li> <li>・バスベイ整備</li> <li>・乗降時間短縮</li> <li>・PTPS導入</li> <li>・柔軟な運行形態</li> <li>・高遠バス導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EVカーシェアの導入</li> <li>・サイクルシェアの導入</li> <li>・バス路線網の再編</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祝園駅前広場の一般車両の流入規制</li> <li>・高機能バスステーションの整備</li> <li>・けいはんなプラザ・KICKIにおける高機能バス停の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスロケーションシステムの導入</li> <li>・スマートライトの導入</li> <li>・最新の情報システムの導入の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モビリティ・マネジメントの実施</li> </ul>

※太字:短期的(5年間)で取り組むもの